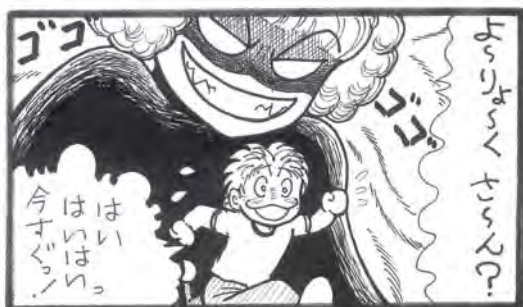


第41回 アリ

カゴちもん ショウくん かほくがたナルドレン



小さい生きものの代表とされるアリ、「ありんこ」と呼ばれ、地味で目立たない、弱いものといったイメージがありますが、実はハチの仲間です。毒針を持ち人を刺すアリもいて、強い毒を持っている種も多くいます。またグンタイアリのように集団で襲いかかり、場合によっては牛や馬などの大きな動物を食い殺してしまうものもいます。たかが「ありんこ」とあなどるなかれです。

世界には働きアリで2.5cm、女王アリでは4cmにもなるアリがいるそうです。4cmの昆虫となると結構大きいですね。この世界最大のアリ、名はディノハリアリといいますが、その名の通り腹部に毒針を持っています。ウィキペディアによると「肉食性の獰猛な種で、大きな顎と腹部末端の毒針を駆使して他の昆虫だけでなく、両生類や爬虫類などにも襲いかかり、エサにしてしまう。体が大きい分針が大きいだけでなく毒量も多く、人間でも刺されると非常に痛い上に、アナフィラキシーショックの恐れもあるので、現地では他の毒針を持って刺すアリ達と同様に恐れられている。大顎も噛まれると人の皮膚など簡単に噛み破って出血させる威力だと云われる」ということです (<https://ja.wikipedia.org/wiki/ディノハリアリ>)。

日本最大のアリは、ムネアカオオアリまたはクロオオアリで、体長は働きアリで12mmほど、女王になると16~17mmになるそうです。幸いに、これらの種は毒針は退化していますので、刺されることはありません。現在、日本には280種ほどのアリが生息することが知られています。この中にはオオハリアリなど毒針を持っている種もいるので、注意が必要です。一方、日本最小のアリは、コツノアリで、働

きアリの体長は1mmしかありません(参考 Ant room <http://www.antroom.jp/index.ph>)。日本には、276種ほどのアリが生息することが知られていますが、このうち河北潟の周辺や干拓地からは、20種ほどが見つかっています。

アリは昆虫の中でもよく研究されているグループで、分類学や生態学の分野で研究が進んでいます。日本に生息するアリは全ての種がデータベース化されてネットで公開されています(<http://ant.edb.miyakyo-u.ac.jp/J/index.html>)。

アリは巣をつくり集団で暮らし、女王や働きアリといった階層に分かれていることから社会性昆虫と呼ばれています。その働きアリのイメージから、「ありんこ」が働き者を指すこともありますが、最近、働きアリの中にも働かないアリもいることが分かってきました。さらに働かないアリがアリ社会の中で重要な役割を果たしていることも分かってきました。アリの世界も複雑です。(文：高橋 久)